

平成 31 年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史 A	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	「世界史 A」 (東京書籍)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・毎時間の課題の取り組みについては、関心や意欲を重視して評価します。
- ・教科書読みや、発問に対する回答など意欲的に授業に取り組む姿勢を評価します。

2 学習の到達目標

近現代史を中心とする世界の歴史について、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら、現代の諸課題を歴史的観点から考察できるようにする。また、歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用 of 技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、歴史上の諸課題について問題意識を持って意欲的に追究しているか。 ・歴史上の諸課題について追究してきたことを通して、国際社会の一員として現代の諸課題に主体的に関わろうとする態度を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察しているか。 ・その諸課題について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら、国際社会の変化を踏まえて公正に判断しているか。 ・その諸課題について歴史的観点から考察したり判断したりした過程や結論を、様々な方法で適切に表現しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史を中心とする世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。 ・資料や情報を効果的に活用することを通して歴史的事象について追究する学び方を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な知識を身に付けているか。 ・近現代史を中心とする世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているか。
評 価 方 法	課題への取り組み 発言	定期考査 発表	定期考査 レポート	定期考査 小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	主な評価の観 点				単元(題材)の評価規準	評価方法			
			a	b	c	d					
1 学 期	1 章 前 近 代 の 諸 文 明	序節 人類の始まり	○	○			a: アジアの風土・生活・言語・思想などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、アジアの特質について考えようとしている。 b: 人類の登場、食料生産革命、文明の成立などについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 c: 教科書に掲載されている地図や絵画・図版などを適切に活用し、その文化の特色に触れることができている。 d: 日本やアジア、ヨーロッパや南北アメリカの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・小テスト ・発問評価 ・授業態度			
		1 節 東アジアの文明	○		○	○					
		2 節 南アジアの文明	○		○	○					
		3 節 東南アジアの文明	○		○	○					
		4 節 西アジア・北アフリカの文明	○	○	○	○					
		5 節 ヨーロッパの文明									
		6 節 南北アメリカの文明									
		7 節 ユーラシアの交流圏									
		2 章 一 体 化 に 向 か う 世 界	1 節 繁栄するアジア	○ ○	 ○	 ○			○	a:大航海時代におけるヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立、アジアの諸帝国の繁栄などに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:設定された時代の諸地域の特質を見だし、世界商業の進展などに関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 教科書に掲載されている地図や絵画・図版などを適切に活用し、その文化の特色に触れることができている。 d:大航海時代におけるヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立、アジアの諸帝国の繁栄について理解し、その知識を身に付けている。	
			2 節 大航海時代と新たな国家の形成								

2 学期	3 章 欧米の工業化とアジア諸国	1 節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	○		○	○	a:18 世紀後期以降の諸地域世界の様子について、社会の変化と新たな社会の成立、ヨーロッパの進出によるアジア・アフリカ・ラテンアメリカの変貌に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・小テスト ・発問評価 ・授業態度
		2 節 自由主義・ナショナリズムの進展	○			○	b:18 世紀後期以降の諸地域世界の変貌の特質を見だし、19 世紀の世界の一体化と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	
		3 節 アジア諸国の動揺	○		○	○	c:18 世紀後期以降の諸地域世界の変貌に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	
		4 節 東アジアの大変動	○	○	○	○	d:18 世紀後期以降の諸地域世界の変貌についての基本的な事柄を 19 世紀の世界の一体化と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	
	1 章 現代世界の芽生えと	1 節 現在につながる社会の形成	○			○	a:19 世紀末から 20 世紀初頭にみられた社会の急激な変化や、二つの世界大戦の原因や影響と平和の意義などに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	
		2 節 第一次世界大戦がもたらしたもの	○	○		○	b:20 世紀初頭にみられた社会の急激な変化の具体的な様相や、二つの世界大戦の原因や影響と平和の意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	
		3 節 “民族自決”を求めて	○			○	c:二つの世界大戦の原因や総力戦としての性格、両大戦の影響と平和の意義などに関する諸資料を収集し、適切に活用する技能を身に付けている。	
		4 節 経済危機から第二次世界大戦へ	○	○	○	○	d:20 世紀という時代の基本的な事柄や、二つの世界大戦の原因や総力戦としての性格についての基本的な事柄を、両大戦の影響と平和の意義などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	
3 学期	2 章 冷戦から地球社会へ	1 節 冷たい戦争の時代	○		○	○	a:第二次世界大戦後の諸地域世界や現代の諸課題について、関心を高め、意欲的に追究しようとしている	・定期考査 ・提出課題 ・小テスト ・発問評価 ・授業態度
		2 節 冷戦終結への道のり	○			○	b:第二次世界大戦後の諸地域世界や現代の諸課題について、現在の政治・経済の動向と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	
		3 節 地球社会への歩み	○			○	c:第二次世界大戦後の諸地域世界の問題や現代の諸課題に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	
		4 節 持続可能な社会をめざして	○	○		○	d:第二次世界大戦後の諸地域世界や現代の諸課題についての基本的な事柄を、世界の政治・経済の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

